

# 「考える」訓練としての起業家教育

神戸国際大学附属高等学校 大木誠一  
ohki@kobe-michael.ac.jp

## 1. はじめに

2003年度より、情報教室を使用し世界史の授業を展開してきた。そこでは、「考える歴史」という目標をかかげ、生徒たちが、PCを考えるためのツールとして使用しながら主体的に学ぶことを目指してきた。その結果、生徒の興味関心を高めたり、歴史的事象への共感を持たせることにおいては、IT機器は効果的であることを確かめることができた。しかし、それは、生徒が歴史を考えることにはつながらなかった。そこで、興味関心から出発し、歴史的事項について「考える」ことを中心とした学習を実現する準備段階として、2004年度、プロジェクト学習「起業家教育」を実施した。

## 2. プロジェクト学習「起業家教育」の目的

歴史の授業は、学習者に、現実社会を考察するための視点を提供し、現代に生きることを意味を問う授業であると考えている。歴史の学習をおおして、学習者は、知識を得ただけでは不十分であり、過去に生きた人々の生き方を考え、現実を生きる自分を見つめなおすようにならなければならない。そのために、歴史を多面的にとらえ、解釈・分析するスキルを身に付けることが必要である。そこで、思考のプロセスと思考スキルを、生徒が具体的に理解・修得する訓練として、本プロジェクト学習を実施することにした。

## 3. 概要

校内にコンビニエンスストアを開設することを想定し、そこでの売れ筋商品を企画・発表するためのワークショップとプレゼンテーションを実施した。まず、身近なコンビニについて、観察、分析、仮説をたてるなどの思考スキルを訓練するために各段階で与えられた課題を、生徒がグループワークをおおして解決した。次に、グループ毎に練られた企画を、プレゼンテーションするための作業とプレゼンテーションを実施した。

実施期間 2004年4月13日～6月22日

対象人数 2学年 1クラス 43名

総時間数 20時間

学習目標

ワークショップ形式の授業をおおして、情報を収集・整理・分析する力、論理的に思考する力、コミュニケーション能力を身に付けること

学習課題

コラボレーションの実践と思考スキルの獲得、論理的思考とそのプロセスを体験すること

## 4. 特色

### ■ グループワークを重視

個人の作業や考えたことをもとに、毎時、グループワークを中心とした授業形態を実施した。そこでは、グループでの意見交換に不慣れた生徒の状況に配慮して、ブレインストーミングを多用した。また、コミュニケーションする力が十分に養成されていない状況を考慮して、グループワークの人数を工夫した。すなわち、2人のブレインストーミングからはじめ、最大4～5人でグループワークを実施した。

### ■ 具体的事例・課題をおおした思考スキル獲得のための訓練を実施

#### 2校時目 比較する

スーパーマーケットとコンビニエンスストアの特徴を比較し、消費者が、それぞれに求めているものを考えた。その結果を、指名したグループが発表することで、他の意見を共有した。

#### 3・4校時目 法則を考える

コンビニエンスストア内の商品配置とスナック菓子の棚割り配置、客の動線を考えた。結果を発表する際には、誰もが納得する客観的な理由を述べるように指導した。

#### 【生徒の感想】

➤自分たちで考えるのは楽しかった。

▶ 売る側が、いろいろなことを考えているのがわかった。

▶ 今日は・・・多くの意見が出たので驚いた。

#### 5・6校時目 推論・分析する

店内の商品を写した3枚の写真から、当該のコンビニエンスストアの顧客層、立地条件を、推論・分析した。その結果は、根拠となる理由を添えて、指名したグループが発表した。

##### 【生徒の感想】

▶ 商品を売るには、いろいろ客のことを考えないといけないということがわかった。

▶ 写真から、考えることは難しかった。

#### 7校時目 仮説をたてる

校内球技大会に臨時出店すると想定し、天候条件・来客数などを考慮して、発注商品を考えて。

##### 【生徒の感想】

▶ 最初は、3つぐらいしか商品のアイデアが浮かばなかったけどグループで話し合うことでいろいろな情報が入ったし、自分のアイデアもふくらんだので、話し合うことはとても大切なことだと思った。

▶ 自分の考えをどのように言えばいいのかわからなくて、いろいろ苦労しました。でも、他の人の意見を聞いて、自分の伝えたいことを、そういう言い方をすればいいのかとったりすることがありました。

▶ 自分たちのグループで気づかなかったことを、他のグループの発表で知り、知識がふえた。自分で考えるより、グループで考えるほうがたくさんのがわかった。

#### ■ 結論を導き出すための思考プロセスを、具体的課題をとおして理解する

9～16校時目

- 企画のための、多くのアイデア・情報の収集と整理
- 収集・整理した情報を検証するための、コンビニエンスストアの現況調査（宿題）
- 企画商品を絞り込むための、根拠と基準

の設定

- さまざまな要因を考慮し、売れ筋商品を推測する（仮定）

- 売れ筋商品を検証するため、身近な人に聞き取り調査を実施（宿題）

- 売れ筋商品企画の最終決定

#### ■ 思考プロセスの表明を重視したプレゼンテーション

プレゼンテーションの技術的側面より、企画決定までの思考プロセスを明示的に表明することをプレゼンテーションの目的とした。従って、プレゼンテーションの評価項目も、結論を導き出した過程が、客観的にわかりやすく表明できているかどうかに関心を注いだ。

##### 【生徒の感想】

▶ ……とてもドキドキして思うようにいきませんでした。最後に質問された時も頑張って答えようとしたのですが、なかなかうまくいきませんでした。……また、プレゼンは自分の意見だけではなく他の人の意見もまとめなければならないのがとても大変でした。みんな素晴らしい意見だったので、どの意見を使えばいいのか困ってしまいました。

▶ 最終プレゼンは、聞いてる側にわかりやすく伝えるような工夫をすることが出来なかった。今度はわかりやすいように発表したい。

▶ ……班で協力し合い、いろいろと企画をたて、役割などを決めたりしてがんばった甲斐があったと思う。自分はいろんな役割について、調査用紙作り、集計用紙作り、グラフ作りを担った。この苦労が結果に結びついたのは非常に嬉しかった。パソコンで作ったグラフは最終プレゼンで使ったが評価のところに「グラフも見やすい」と書かれていたのは嬉しかった。

#### ■ プレゼンテーションは、外部講師による評価を実施

企画の現実性を高めるため、プレゼンテーションの評価を、外部講師に依頼し、評価

の発表と全体の講評を実施した。

【外部講師の評価】

- ▶ 購買時期・立地・ターゲットを明確にして、アイデアを抽出したプロセスが説明されており非常にわかりやすかった。
- ▶ 新しい発想を行っている所が良く、アイデアの抽出プロセスもよい。競合との差別化に着目していたことも評価したい。ターゲット特性を活かした設定ができているところも良かった。
- ▶ 自分たちの仮説を検証するためにアンケ

ートを使ったという視点が非常に良い。90人近いサンプル数やアンケートの取り方も非常に良かった。

- ▶ 発表の冒頭で「結論」から提示している所は非常に良い。その一方、発表の構成上、仮説アイデアの抽出から始まる一連の考え方のプロセスがわからなかったのが残念。

- 教師は、支援者に徹するように努めた
- PC、アプリケーションの操作は、助言にとどめ、全く指導しなかった

5. 経過

	学習課題	学習内容
1校時	導入	ブレインストーミングの説明と体験
2校時	比較する	コンビニエンスストアとスーパーマーケットの比較を、グループ毎のブレインストーミング実習として実施した
3校時	法則を考える	ワークシートとプロジェクトで提示した情報をもとに、商品レイアウトなどを、グループワークをとおして考えた
4校時		
5校時	分析する	提示された写真をもとに、グループ毎に、その店舗の特徴を考え、立地条件と顧客層を推測する
6校時		
7校時	仮説を立てる	与えられた設定を実現するための諸条件をグループで考え、企画を提案する
8校時	POSについて	コンビニエンスストアの情報システムとマーケティングについての講義
9校時	企画作成	最終課題にむけての、今までのグループワークが、思考のプロセスと思考スキルの体験であることを、講義をとおして、全体で確認した。その後、プレゼンテーションの準備作業に入る
10校時		
11校時		
12校時		
13校時	中間報告会	グループ毎に進捗状況の報告と課題をチェックする
14校時	調査企画	最終課題の結論を検証するため、簡単な聞き取り調査を企画、実施する
15校時		
16校時	デモンストレーション	教師が、プレゼンテーションのデモを実施し、各グループで、プレゼンテーションとは何かを考えた
17校時	プレゼンテーション練習	リハーサルと最後の修正を実施する
18校時	プレゼンテーション	各グループ3分間×11、生徒同士の評価、授業支援者の評価、外部講師の評価を実施
19校時		
20校時	外部講師による講評	外部講師が、グループ毎にプレゼンテーションを講評。生徒に感想を書かせる

## 評価観点表

このプロジェクト学習の評価は、以下の評価観点表に基づいて実施した。ワークシートは、3段階で評価し、その合計を点数化した。また、プレゼンテーションは、生徒同士の相互評価と外部講師の評価を点数化し合計して評価した。

	関心・意欲・態度	思考・判断	技能・表現	知識・理解
ワークシート	○	○		○
プレゼンテーション		○	○	○

## 6. まとめ

本プロジェクト学習は、歴史学習を「覚える」ことから脱却して、「考える」学習過程に変えていくという試みの一環である。そのため、週3時間の世界史Bの授業のうち、2時間を利用して、これを、実施した。これに、併行した世界史Bの授業形態は、本プロジェクト学習に対応するものになるように工夫した。従来は、教科書と資料集を使用し、その内容を一方的に説明するものであったが、それを、取り扱う内容・範囲はそのままにして、以下のように、授業形態を変化させた。学習のテーマ： 帝国主義と第一次世界大戦  
概要

19世紀、帝国主義時代における列強の状況を確認し、列強による世界分割の様子を概観する。そして、第1次世界大戦の直接原因が、列強の生み出した世界情勢に求められることを理解させ、同時に、基本的な歴史知識を獲得する方法を体得させることを目指す。

- (1) 歴史を「考える」ために、必要な情報の整理や、意見交換を授業の中心にした。
  - 教科書・資料を使って、帝国主義時代の列強について、情報を整理。
  - インターネットを利用して、列強諸国の現状と、国別の基本データを収集。
  - 整理・収集したデータを、ブレインストーミングを利用してグループで共有し、帝国主義の背景と特徴について意見交換。
  - 教師は、細かい事項の説明時間を極力減らし、大きな流れと時代の要点のみを説明した。

(2) 第1次世界大戦をテーマにして、歴史的出来事を、自分で整理した情報をもとに分析する訓練をした。

- 生徒は、第1次世界大戦について、A4 2枚のレポートを書く。

これらの試みをとおして、生徒たちは、テーマが身近に感じられ、到達目標が明確であれば、考えることを、さらにグループワークを楽しむことができることを示した。しかし、第1次世界大戦について提出されたレポートの内容を見ると、まだ、歴史を「考える」訓練が、かなり必要なことが明らかになった。そこで、2学期以降は、このプロジェクト学習で実践した試みを、通常授業のカリキュラムに応用し、「考える」ための基礎訓練を継続していくこととした。また、これらの試みでは、歴史に関する基礎知識を、生徒が自ら定着する方法を考慮していなかった。この点についても、2学期以降、生徒が、定期試験の予想問題を各自作成し、試験結果を見て、予想を検証する方法を導入した。その後の経過を見ていくと、歴史的知識を生徒が獲得するために、説明を中心とした一方的な講義形式以外の方法も、可能であることが明らかになってきた。すなわち、全クラス共通問題の定期試験において、一方的な講義を中心とした授業展開から、生徒の自主的活動に重点をおいた展開にした当該クラスの平均点が、他クラスのそれと大きく異なることはなかったのである。また、関連語句の詳細説明は、グループワーク中での質問をとおして、全体に共有できることも経験できた。